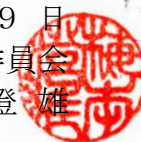


南アルプス市立豊小学校 平成29年度前期学校関係者評価書

平成29年9月19日

豊小学校学校関係者評価委員会

委員長 梅本 澄雄



【第2回 学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 平成29年9月15日（金）午後4時15分から午後5時30分まで
- 2 会場 豊小学校校長室
- 3 参加者

(1) 学校関係者評価委員（全員参加）

No.	氏名	役職名	備考
1	梅本 澄雄	元本校校長	学校関係者評価委員長
2	吹野 武人	豊地区自治会会長	地域代表 副委員長
3	齊藤 尚子	元本校校長	学識経験者
4	津久井豊徳	元橿形中学校校長	学識経験者
5	花輪 絹子	主任児童委員	地域代表
6	山田 美紀	平成29年度PTA会長	保護者代表

(2) 学校職員（3名）

No.	氏名	役職名	備考
1	伊藤 正人	校長	
2	深澤 茂弥	教頭	事務局
3	丸山 哲也	教務主任	

4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 豊小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 協議内容・意見

○豊小学校前期自己評価書に対する考察

（教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証）

(1) 教育目標について

- ・学校教育目標や学校経営方針が明確に示され、「めざす豊の子像」や「教師のテーマ」及び5つの重点項目が盛り込まれ、「確かな学力」「しなやかな心・健やかな体」「環境整備」などについて共通理解を図り、それらをPTA総会や学校だより学年通信ホームページ等で伝えているので、保護者や地域にも浸透していると思われる。今後、開放日・行事等を通してさらに理解を深めてもらうとよい。職員は、目につきやすい校長室・職員室・廊下等に学校目標を掲示し、意識していく。
- ・教職員間において、学校教育方針の共通理解を図り、組織「チーム豊」として教育活動・学校運営に励んでほしい。

(2) 学校経営・組織について

- ・児童に対する様々な問題に対して、教職員の個々の能力や経験を活かしながら、組織として効果的な取り組みを行ってきた。今年度はさらに、「誠意は、スピードである」を共通理解のもと、生徒指導上の問題も早期発見・早期対応を心がけてきている。これからも信頼される学校づくりに励んでもらいたい。
- ・特性をもった児童の対応については、特別支援コーディネーターを中心に、外部の専門機関と連携して取り組んでいることは、児童にとっても、保護者にとっても大切な

ことである。ケース会議や校内支援委員会などの早期対応を心がけてほしい。

- ・豊小では、小笠原礼法を活かした心の教育推進事業、地域ふれあい道徳教育推進事業、いじめ不登校未然防止推進事業、学校保健研究指定校、などいくつかの指定を受けている。特に問題があるという理由ではない。日常的に行われている取り組みを振り返り、もう一步意識して取り組んでほしいというものではないかと思う。

(3) 学習指導について

- ・「豊小学びプラン」の取り組みで成果を上げてる。県・全国学力状況調査の結果にも表れている。「家庭学習がんばろう週間」を年7回計画し、その期間中は、自主学習ノート(家庭学習)に保護者、担任がコメントを記入し、意欲化などの取り組みを続けている。担任は大変だが高い評価を受けた。自主学習ノートを学校長に提出することを励みに、家庭学習に積極的に取り組む児童が増えている。継続と徹底をキーワードにがんばってほしい。これからも引き続き、学ぶ喜び・わかる楽しさが実感できる授業改善に繋げてほしい。
- ・学級力向上が学力アップにつながるという早稲田大学の田中教授の考えのもと、各学年学級力向上プロジェクトに2学期以降取り組んでいく。引き続き実践してほしい。
- ・6年生が行っている養蚕は、豊小学校の特色、伝統の一つになっている。地域の歴史を学ぶ機会にもなる。クラブ活動で取り組んでいる沢登地区の「切子」とともにこれからも続けてほしい。

(4) 道徳について

- ・道徳は、平成30年度から教科化される。「特別な教科道徳」としての取り組みが始まる「課題を投げかけて子どもたちが議論し合う」という学びが必要である。さらに、実践力は日頃の日常的な活動が大切である。豊小は、「あいさつ」「はきものの整頓」「廊下を走らない」など、率先垂範でよく取り組んでいる。特に、あいさつは、自己表現の入口であり、自分自身を表現することである。当たり前のことになるまで、継続した取り組みをお願いする。本市の教育の基本として「小笠原流礼法」の礼儀作法を師範から体験的に学び、生活や行事の中に活かしていくことが大切である。礼儀指導は、心の教育にもつながるものである。

(5) 特別活動について

- ・今年度の児童会活動テーマは「明るく 優しく いじめなく」である。実践力の育成と意欲化に取り組んでいる。「あいさつ運動」では、児童会本部役員から始まり、各学年の児童が玄関に立つことで主体性の育成を心がけている。リサイクル活動は、常時活動としてつつる紙の回収、アルミ缶集め、エコキャップ集めを行っている。月1回ではあるが、定着している。今後も取り組みと評価に工夫を凝らし、運動を推進してほしい。
- ・委員会活動・クラブ活動は、地域の方々の御協力・御支援に支えられ、地域文化の伝承活動にもつながり、充実した活動となっている。

(6) 学校行事

- ・「活動あって学びなし」になってはいけない。ねらいを明確にし、意識し理解させ、普段の生活や学習で得たことを明日の生活に活かせる行事をつくり、児童の達成感や成就感につなげてほしい。

振り返り・総括をていねいにしていく必要がある。次につながる活動を心がけてほしい。

(7) 生徒指導・生活指導について

- ・あいさつを返す児童は徐々に増えているが、すすんであいさつをする児童はまだ多いとは言えない。見守り隊の感想にも個人差をあげている。「明るく元気なあいさつ」が豊小の課題の一つである。積極的なあいさつができるように、継続した取り組みをお願いしたい。あいさつは自己表現であり、コミュニケーション力の基本であるという共通認識のもと、教育を行ってほしい。
- ・基本的な生活習慣が、児童の学校生活・学力に影響を与えている。児童の問題・課題に

対しては、家庭と連携協力する中で、これからも早期発見・早期対応を心がけてほしい。

- ・外国籍の児童も3名ほど在籍している。児童、保護者との相互理解も言葉が壁になることがある。定期的に日本語指導を行っているが、十分ではない。保護者との懇談時には、ボランティアに通訳をお願いすることがある。個々の支援をお願いしたい。

(8) 勤務について

- ・働き方改革が叫ばれている。時間を有効に使って無駄に長く学校に留まることがないように心がけていく。
- ・早朝から勤務したり、休日も学校に来て仕事をしたりしている職員もいるようだが、健康には十分留意し職務に励んでもらいたい。大変忙しいとは思いますが、児童と接する時間の確保も大切である。
- ・やるべきことは限りある中で、先生方の家庭も大切にして教育に励んでほしい。
- ・学校の仕事は、多岐にわたる何事もバランスが大切である。

(9) P T A・地域社会について

- ・各自治会は、地域・PTA・学校と連携し、地区の安全安心な環境整備に努め、協力してくれている。
- ・今後も学校・家庭(保護者)・地域・教育委員会が連携して児童の育成にあたる協力体制を築いてほしい。
- ・学校の垣根を低くし、楽しむ気持ちで「チーム豊」としてみんなで子どもを育てましょう。
- ・やらされる活動から主体的な活動に前進できればいいと思います。真のボランティア活動を目指してほしい。

6 今後の課題

(1) 学習指導について

- ・校内研究で取り組んでいる「算数科を中心とした学び合い、高め合う授業」の研究を充実させて、児童一人一人が自分の考えをもち、安心して発言できるようなクラスづくりと工夫した取り組みにより「確かな学力」の育成につなげる。
- ・朝学習や授業の中で、課題と思われる領域や問題を意図的に取り上げ、課題克服につなげる。

(2) 道徳について

- ・明るく積極的なあいさつができるように、児童会の取り組みも含め、継続的な取り組みが必要に思う。見守り隊の感想の中でも個人差をあげている。年齢や学年に応じて取り組み方法を工夫し、自己表現力の向上につなげてほしい。地道な取り組みを心がけてほしい。
- ・自分で決めて自分でやろうとすることは、意欲的にでき、疲労感も少ない。さらに、保護者教師を含めた大人が見ていてくれると思うとやる気になる。主体的な活動に近づけることが大切である。

(3) 生徒指導について

- ・大きな問題が発生していないと聞いて安心した。引き続き、「いじめは絶対許さない」を学校全体の合言葉として、さらに生徒指導の徹底を図って欲しい。児童の些細な言動にも敏感に捉え、アンテナを高くし、予防的視点、姿勢を持って日々の活動を心がけてほしい。
- ・問題や課題は一人で抱え込まないで、みんなで組織として取り組むことが大切である。
- ・給食指導の面で、低学年はグループを作らずに給食を食べているようだが、今は班を意識した取り組みはしていないのか。仮設校舎で手狭ということもある。特に低学年は、グループで給食をとると時間内に食べきれなくなってしまう。学年が上がるにしたがって。グループを取り入れコミュニケーション力を高めていく。